

バルコス(7790)

インフォーマーシャルを中心に、ECサイトと店舗販売のクロスメディアでオリジナルブランドのヒット商品を生み出す
TOKYO PRO Market | Eコマース・一般消費財 | 会社紹介

フィリップ証券株式会社

BLOOMBERG 7790:JP | REUTERS 7790.T

- バッグ等の皮革商品の小売・卸売業を主な事業とし、クロスメディア事業、店舗事業、および海外事業を展開する。
- 中国広州の工場でのサンプル製造を1週間程度に短縮できること、およびインフォーマーシャルを中心にECサイトや店頭販売をメディアでクロスさせて相乗効果を高めることに事業の主な特徴がある。
- 2020/12期はクロスメディア上のショールームである店舗事業がコロナ禍の影響を受ける中、インフォーマーシャルの強化が期待される。

What is the news?

同社は国内外でバッグ等の皮革商品の小売および卸売業を主な事業とし、クロスメディア事業、店舗事業、海外事業の3事業セグメントで構成される。同社のオリジナルブランドの中でも「BARCOSブランド 男女兼用長財布」は2019/12期売上高の約5割を占める人気商品となっている。

事業モデルの特徴として、①日本のデザインチームが企画・デザインしたサンプルを中国広州にあるサンプル工場で作成するに当たり、通常1ヵ月かかるサンプル製造を1週間程度に短縮できること、および、②比較的長時間にわたって商品紹介をする動画である「インフォーマーシャル(インフォメーションとコマースを組み合わせた造語)」を中心に新聞、雑誌等の広告で露出を高め、ECサイトや店頭販売をメディアでクロスさせ相乗効果を高められることの2点が挙げられる。

2019/12通期は、売上高が前期比39.3%増の30.85億円、営業利益が前期の▲2,068万円から3.11億円へ、経常利益が同▲4,878万円から2.95億円へ、当期利益が同▲4,772万円から1.60億円へ黒字転換。セグメント別の業績は以下の通り。①クロスメディア事業は、売上高が同33.7%増の23.86億円、セグメント利益が同25.3%増の4.73億円。②店舗事業は、売上高が同63.6%増の6.53億円、セグメント利益が前年同期の▲1.51億円から▲698万円へ赤字縮小。8店舗の新規出店が増収および赤字縮小に貢献した。③海外事業は、売上高が同44.5%増の4,527万円、セグメント利益が同21倍の1,893万円。タイで総代理店契約を通じた販売が奏功した。

How do we view this?

2020/12通期の会社計画は、売上高が前期比44.3%増の44.53億円、営業利益が同51.9%増の4.72億円、経常利益が同52.7%増の4.51億円、当期利益が同81.6%増の2.91億円。政府による4-5月の緊急事態宣言下で営業自粛を余儀なくされた店舗事業が影響を受けるなか、鳥取県が行う新型コロナウイルス感染症対策事業に協力してマスク販売を開始したほか、クロスメディア事業の戦略見直しにより店舗事業の損失を吸収することで増収増益を見込む。同社は店舗を実際に商品に触りたい顧客への「ショールーム」と位置付けていたが、コロナ禍の影響が続く状況下で、インフォーマーシャル広告の強化がより重要となると考えられよう。

業績推移

| 事業年度 | 2018/12 | 2019/12 | 2020/12F |
|-----------|---------|---------|----------|
| 売上高(百万円) | 2,215 | 3,085 | 4,453 |
| 経常利益(百万円) | ▲48 | 295 | 451 |
| 当期利益(百万円) | ▲47 | 160 | 291 |
| EPS(円) | ▲51.87 | 174.13 | 256.05 |
| PER(倍) | - | 4.94 | 3.36 |
| BPS(円) | ▲149.23 | 59.40 | - |
| PBR(倍) | - | 14.48 | - |
| 配当(円) | - | - | - |
| 配当利回り(%) | - | - | - |

(※) 同社が連結財務諸表の作成を開始したのが2018/12期からであるため、2017/12期から以前については記載していない。
(※) 2020/7/31付で普通株式1株につき1,000株の割合で株式分割を実施したが、2018/12期の期首に当該株式分割が行われたと仮定してEPS、BPSを算定している。(出所: 会社公表資料をもとにフィリップ証券作成、F=会社予想)

配当予想(円) - (会社予想)
株価(円) 860 2020/10/2(基準値)

会社概要

1991年に代表取締役社長の山本敬氏が鳥取県倉吉市で設立。社名のバルコスには、スペイン語のbarco(船)から、会社が大きく発展するようという願いが込められている。

同社は国内外でバッグ等の皮革商品の小売および卸売業を主な事業とし、主なオリジナルブランドとして「BARCOS(バルコス)」、「Hanaa-fu(ハナアフ)」、「BARCOS J LINE(バルコスジェーライン)」、「Barcos Blue(バルコスブルー)」を擁する。その中でも、「BARCOSブランド 男女兼用長財布」は、2019/12期の売上の約5割を占める人気商品となっている。

2020/10/2にTOKYO PRO Marketに上場した。

同社の事業セグメントは、「クロスメディア事業」、「店舗事業」、「海外事業」で構成される。

①クロスメディア事業は、比較的長時間にわたって紹介する動画である「インフォーマーシャル(インフォメーションとコマースを掛け合わせた造語)」をテレビなどで放映するほか、新聞・雑誌等の各種メディアを活用し、公式オンラインショップや外部のECサイトで商品を販売する。

②店舗事業は、鳥取県内をはじめ東京や大阪等の大都市圏の百貨店や商業施設で幅広く店舗を展開し、2020/7末現在、21店舗を展開。テレビや雑誌の広告出稿と連動して、各ECサイトと店舗を繋ぎ、相乗効果を図っている。

③海外事業は、ミラノやパリ等で開催される海外展示会への出店を積極的に行い、世界各国のバイヤーへ新作をプレゼンし注文を受けるほか、タイでは現地アパレルメーカーと総代理店契約を結び商品の販売を行っている。

企業データ

主要株主(2020/8/28) (%)
1. 山本 敬 80.70
2. 株式会社グリーン 19.30
(出所: 会社公表資料をもとにフィリップ証券作成)

アナリスト

笹木 和弘
kazuhiro.sasaki@phillip.co.jp
+81 3 3666 6980

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL: 03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘
リサーチ部 李 一承

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平 14.1.25」に基づく告知事項>

1. 本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。
2. 当社は、東京証券取引所の定める「特定上場有価証券に関する上場規程の特例」(以下「特例」)第102条の規定に基づき、発行会社の担当 J-Adviser に就任する旨の契約を締結いたしております。また、当社は、「特例」第135条に定める流動性プロバイダーであり、発行会社株式の円滑な流通の確保に努めるほか、流動性プロバイダーとしての義務を負っています。